

家庭問題

カウンセリングルーム

Counseling Room

第106回

身勝手な夫と暮らす憂うつな日々

～子どものために離婚はしたくないと思うけど～

家庭問題情報センター・かすが春日 さだかず完和

A子さん（四十歳）は、三か月前、偶然、夫（二歳年上）の携帯電話に女性からの着信があったのを見た際、A子さんの問いを無視した夫の態度に女性関係を疑い、必要最小限の会話になってしまいました。

妻の気持ちを理解しようとしないう夫を嫌悪する感情と、子どもたち（長男・小四、長女・小一）を片親にしてはいけないとの思いから、寢床に入って子ども達の寝顔を見て、なかなか寝付けない日々を過ごしているということでした。

A（A子） 私は夫を問い詰めるような言い方はしてないし、深い関係ではないなら一言謝ってさえくれれば、子どもたちのためにも夫を信じてついて行こうと思っっているのです。

カ（カウンセラー） 今は夫が何を考えているのか分からなくなっているんですね。

A 夫は二年前に課長に昇進してから帰宅が遅い日や出張が多くなって、以前のように家族一緒に食事をするのが少なくなりました。私も住宅ローン返済のためパートで働くようになって、夫婦で話す時間も少なくなりました。夫は一方的に自分の考えを押しつけてくるようになったのです。

カ そうでしたか……。更に女性関係まであったのかと不信感を持つようになった。

A 私の気持ちを理解しようとしないう夫から夜の関係を求められても応じたくないと思うようになり、拒むことが多くなりました。三か月前のことからは別室で寝ています。

カ 夫婦が良い関係を保つには、会話の機会を多く持つのはとても大切なことですが、性関係も夫婦にとってとても大切なことなんです。

お子さんたちとお父さんとの親子関係はどうでしょうか。

A 夫は子どもたちのことは私に任せっきりですが、子どもたちは父親を慕っています。子どもたちにはとてもいい父親なんです。

カ 子ども達の健全な成長には、「お母さんもお父さんも大好き」な存在であること、両親が笑顔で会話する姿を目にするということは豊かにする大切な栄養素なんです。

A そうですね。それは分かっているのに離婚は考えたくないのですが……。

実家に行って両親に相談したとき、父から「夫の浮気は妻が原因を作っていることもある」と言われて口論になってしまい、嫌な思いをしてしまいました。

私にも責任があったのでしょうか。今夫とどのように向きあつたらいいのかわからないのです。

カ 今おっしゃった自分についての振り返りと、夫との向き合い方についての悩みは、夫婦関係を修復しえるかどうかを考える糸口なのです。

夫婦関係に限らないのですが、良い関係

を保てなくなるのは、お互いがどのように考えや感情・思い・意思を伝え合っているのか、伝え合うこと（コミュニケーション）に気遣いをしているかによるのです。

A それはお互いにですよ。今の夫には夫婦関係でそのようなことは期待できないと思います。もう円満な生活は望めないのではと思っているのです……。

力 今のあなた方の夫婦親子の関係では、両親はもっと子どもたちの心に心の目を向けなければならぬのです。

お子さんたちの年齢になって、両親のコミュニケーションがよくないのを察知して嫌な思いで生活していると、お父さんと楽しく会話しているとき、お母さんは悲しい思いをしているのではないかな、という「葛藤感情」が生じて、自分は良くないことをしているような気持ちになるのです。

A そうなんです。両親の関係がよくなないと、子どもたちは不安な思いになりますよね。

力 そうです。子どもたちこそ被害者なんです。親としてのその考えがお互いに自己理解をする切っ掛けになるといいのですが。

A その切っ掛けを作るにはどうしたらいいのでしょうか。

力 今の私には考えられません。例えば、子どもたちがお父さんと楽しそ

うに過ごしている・会話している、それを見守るお母さんの笑顔を、子どもたちが目にして笑顔を見せる、それをお父さんが目にする様子をイメージしてみたらどうでしょうか。

A (沈黙) 以前はそうだったな〜といういろんなことを思い出していました。今子どもたちは辛い気持ちを顔に出さないようにしているんです。

実は、今日お聞きしようと考えていたことの一つは、離婚の際親権は譲れないのですが、夫も親権を主張して譲らないときはどうしたらいいのかということでした。

力 子どもたちが「お母さんお父さんどっちも大好き」と思っているのに、その両親の争いで「心の居場所」である家庭を失い、一方の親と別れることになってしまうと、子どもの心に及ぼす痛手で最も心配なこととは、「喪失感」（心理的外傷）なのです。

今子どもたちは、これからどうなるのだろうと、毎日不安な気持ちで過ごしているんです。両親それぞれから、「安心できること」を聞きたいと待ち望んでいます。

A 離婚することは親の重い責任ですね。私の気持ちを考えない夫の態度を責める気持ちが強くて、子どもたちの辛い・不安な気持ちに配慮が足りなかったと思います。

力 それは「お互いに」ということですから、

そのことについて静かに対話できる機会を持つといいですね。

A そうですね……。できるでしょうか。課題は、すぐにでも解決できることではないので、これまでその気になれなかった日常的な気遣いの表現、例えば「行っただけでいい」「お帰りなさい」などから始めてはどうでしょうか。

その時、返事がなくてもいいのです。自然の（緊張のない）関係から、先ほどイメージしたような、親子一緒に食卓を囲み、楽しく食事できるようにすると、更に一歩進めるかもしれません。

A なんとか努力してみようと思います。またご相談に伺ってもいいでしょうか。

A 子さんの悩み、夫への気持ち・感情、夫婦関係、子どもたちのこと、結婚観などについて傾聴する対話の経過の中で、A子さんは自ら話す事柄について冷静に客観視するようになりました。

しっかりしている方なので、それだけ夫の態度に納得できず、相談に來られたと理解することができました。夫婦間で一方通行でない対話の時間を共有できるように助言し、面接を終えました。